

Let's Know Hiroshima Castle.

# しろや！ 広島城



No. 17

城下町こぼれ話

## すなもちかせい 幻の祭り「砂持加勢」って



前号の「しろや！広島城」で、幕末にただ一度だけ行われた祭、「砂持加勢」を再現するお知らせをしましたが、今回は江戸時代の砂持加勢の様子について、ちょっとだけ見てみましょう。この祭では各町単位で山車を作り、仮装をして踊りながら練り歩いたのですが、この様子は当時作成された「広島本川川ざらへ 町中砂持加勢図」という瓦版を見ると良く分かります。

この瓦版では、各町の出し物は、お囃子・お囃子を乗せた屋台・山車・仮装をした人々などで構成されており、それらはあるテーマに沿って作られています。そのテーマは現代の人にはピンと来なくても、当時の人々には常識だった題材が用いられています。ここでは、そのうち二つを紹介します。

資料はいずれも「広島本川川ざらへ町中砂持加勢図」(広島市立中央図書館蔵)

① この絵は鉄砲屋町の出し物の様子です。船に大きなフグの作り物を乗せた山車に、船頭の仮装をした人々がいます。でも、何故鉄砲屋町でフグなのでしょう？

フグには毒があることは良く知られていますね。江戸時代、多くの人がフグの毒に当たって命を落としていました。やがて「もし当たれば必ず死ぬ」ということから、フグは「鉄砲」とも呼ばれるようになったのです。だから鉄砲屋町がテーマに選んだわけですね。そんな怖いフグですが、実は「福」に通じるということから縁起物ともされていました。絵をよく見ると、このフグにはやはり縁起物の当たり矢が添えられています。鉄砲に矢というのも、おそらく洒落ているのでしょう。



② この絵は、白神二丁目の出し物の一部分で、お囃子を乗せた屋台の周りにコウモリに仮装した人々がいます。なんで、こんな不気味な動物に！と思うかもしれませんね。



実は江戸時代には、コウモリは縁起のよい動物だと思われていたのです。なぜなら、蝙蝠(コウモリ)の「蝠」の音がフクで、「福」と同じだから！江戸時代の縁起物の絵などをみると、コウモリが描かれていることがありますよ。

江戸時代、広島城下町では、町名に関する題材、歌舞伎や浄瑠璃の演目、洒落を使って、みんな思い思いの山車を作りました。平成の砂持加勢にはどのような山車や仮装が出てくるのでしょうか。乞うご期待です。(本田)

### 広島城天守閣再建50周年記念事業

☆企画展「城下の祭り～砂持加勢」

9月13日(土)～10月26日(日)

☆砂持加勢まつりを10月4日(土)に開催し、江戸時代のまつりを再現します。

## 広島城の石垣を破壊せよ！

ある年の5月、広島城の城主福島正則は、家臣に次のような手紙を差し出しました。

端午の節句のご祝儀として、三原酒の大樽ならびに干鯛二十枚が届きました。この頃酒がすっかり悪くなったので、ひとしお満足しています。広島城本丸の普請（工事）の件については、何事も相談し、急ぎ石垣や櫓を破壊してください。必ず油断があってはなりません。御前（将軍徳川秀忠）も変わった事は無いので、おのおの気遣いは必要ありません。謹言。

五月三日 宰相  
尾関右衛門太郎殿

〈福島家御書写〉82〉

正則は自らの居城である広島城、しかも城の中心で最も重要な場所である、本丸の石垣と櫓を破壊するよう命じています。

実は、この手紙、福島氏の改易が決定する約1ヶ月前の、元和5年（1619）5月に差し出されたものでした。

これより先の元和4年（1618）、福島氏は洪水で被害を受けた広島城を修理するため、工事を行いましたが、その際正則は武家諸法度で定められた幕府への事前の届け出を忘れ、後になって幕府の重臣たちに報告しました。これが翌5年（1619）4月に、将軍徳川秀忠の知るところとなり、怒った秀忠は正則を処分しようとしたのですが、正則の謝罪や幕府重

臣の反対意見もあり、秀忠は条件付きで許すこととしました。しかし、福島氏側は諸条件を十分実行せず、結局改易となりました。

この条件の中に、広島城を破壊するというものがありました。先に紹介した手紙は、当時江戸にいた正則が、幕府から示された条件を実行するよう、広島の家臣に指示したものであったのです。

幕府が条件として示した、広島城の破壊の対象は、「新しく工事した分の石垣・矢倉を残らず」、あるいは「本丸以外の、二の丸・三の丸・外郭すべて」と、残された史料によって表現が異なっていますが、正則の手紙の内容や、幕府が諸大名に「本丸ばかり壁を取り、少し土をなでおとした」と説明していることから、福島氏は本丸のみ破壊したと考えられます。

平成14年（2002）に行われた発掘調査では、本丸上段東面の斜面でこぶし大の石の集まりが確認され、かつてこの場所に石垣があった可能性が指摘されています。正保3年（1646）頃に描かれた広島城の絵図（「安芸国城所絵図」）では、本丸上段の東面と南面に石垣が描かれていませんが、これは絵図が作成される以前から石垣が無かったことを示していると考えられます。

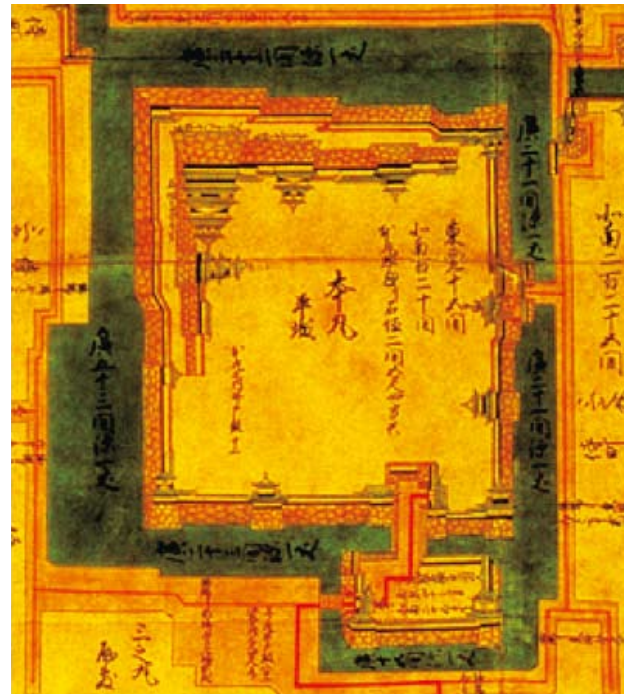


本丸上段東面斜面で見つかったこぶし大の石  
（広島市文化財団文化財課写真提供）

したがって、正則によって破壊された部分とは、本丸上段の東面と南面と考えられるわけです。今日の広島城跡本丸上段の北面の東端で見られる、不規則に途切れた石垣は、しばらく東に続き、南に折れ曲がってさらに南面まで続いていた、つまり本丸上段の周囲は四面とも石垣が築かれていたと考えられます。

ところで、正則の手紙をよく読むと、本丸の石垣のみならず櫓も破壊するよう伝えていることに気が付きます。現状では、本丸上段の北面・西面沿いに、櫓の土台となる櫓台や、堤防のような形の石塁が見られ、正保絵図ではこれらの上に櫓などが建てられていたことが確認できます。ということは、福島氏が破壊した本丸の東面・南面にも、石塁と櫓があったことが考えられます。むしろ、上段の周囲をぐるりと取り巻くように石塁や櫓台が廻っていたと考える方が、お城としてはふさわしくはないでしょうか。

なお、本丸上段の西面については、現状ではほぼ全面に石垣が残っていますが、ここも福島氏による破壊と無関係ではないようです。この問題については、あらためて考えてみたいと思います。  
(篠原)



安芸国城所絵図  
(国立公文書館内閣文庫蔵・写真提供)

[史料・参考文献]

- 「大橋文書」41・49・62 『広島県史』近世資料編2、1976
- 「福島家御書写」82 『三原市史』第6巻資料編3、1986
- 「梅津政景日記」『大日本古記録 梅津政景日記』8、岩波書店、1957
- 「細川家史料」第1巻163号・191号 『大日本近世史料10ノ1 細川家史料』第1巻、1969
- 「細川家史料」第9巻191号 『大日本近世史料10ノ9 細川家史料』第9巻、1984
- 笠谷和比古「徳川幕府の大名改易政策を巡る一考察(一)・(二)」国際日本文化研究センター紀要『日本研究 第3集・第4集』、1990・1991

## 明治維新後の広島城のコーナーが出来ました！



近年、平和学習の一環として広島城跡内の被爆遺跡・戦争関連遺跡等を訪れる学校団体等が増加しました。それにもなつて館内に広島城の原爆被害や戦後の復興、戦前の広島城についての展示を求める声が多く寄せられるようになったことから、今回、広島城の二層常設展示室に「明治維新後の広島城」コーナーを設置しました。

## 展示室で見つけたよ①

# たちかたな 太刀と刀!?

広島城の第三層にはたくさんの刀剣類が展示されています。そこには、長いもの、短いもの、刀身の片側だけに刃がついているもの、両側に刃がついているものなど、いろいろな形のものがありますが、ここではそれは置いておきます。

今回注目したいのは、形は同じなのに飾り方が違うものがあるということです。よく見てください。“片側だけ刃がついていて刃の部分長い”という同じ形なのに、刃を下に向けて飾っているものと、刃を上向きに飾っているものがあります。この違いはどこから来るのでしょうか？

展示してあるものの名前を見てみましょう。刃を下にしているものは「太刀」、刃を上に向けているものは「刀」となっていないか？（ときどき例外もあります）

太刀はおもに馬に乗って戦った時代に使われたもので、刃を下向きして鞘に入れ、紐でおびつ帯に吊るします。一方、刀は太刀よりも新しい時代、歩兵での戦が主流になってから主に使われたもので、刃を上にして鞘に入れ、そ



### 刀(かたな)

茎を左に、切っ先(刀の先端)を右、  
刃を上に向けて展示しています。

れを帯の間に差します。つまり、飾るとき刃を下に向けるか、上に向けるかは、それぞれ太刀・刀を身につけると同じ向きにしてあるのです。

それから、太刀・刀の刃がついていない部分に注目してください。そこは“茎”といい、ふだんは“柄”（握るところ）に隠れている部分です。茎には刀剣を作った刀匠の名前や年代などが刻み込まれていることがあります。これを“銘”（めい）といいます。銘はその太刀や刀を腰に装着した際、体と反対側＝外側に向く面に刻むという約束があります。刀や太刀は右手で抜きやすいよう体の左側につけますから、刀や太刀を飾るときは、それらを左側を向いた人物が身につけているかのように、茎を左に、切っ先を右に向けて飾るのです。そうすると、銘がこちら側から見えるというわけです。

刀剣類の展示を見るときは、その飾り方にも注目してみると、おもしろいことがわかりますよ。（村上）



### 太刀(たち)

茎を左に、切っ先(刀の先端)を右、  
刃を下に向けて飾っています。

しろうや!

広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団  
広島城

〒730-0011  
広島市中区基町 21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519

平成20年9月発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

(12月～2月までの平日は9：00～17：00)

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円(280円)

小人180円(100円)

( )内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト